

第1・2学年 図画工作科学学習指導案

立案者 藤本 賢春（2022年度制作）

1 題材名 うれしい！楽しい！だいすき！（人権ポスターづくり）

（絵や立体，工作）

〈A表現（1）イ（2）イ，B鑑賞（1）ア，共通事項（1）ア，イ〉

2 題材設定の理由

徳島県の小学校では，1学期に「人権ポスターづくり」が全学年で実施されている。（隔学年で実施している学校や，夏休みの宿題として実施している学校もある）この学習の目的は，「あいぼーと徳島徳島県立人権啓発推進センター」のホームページ内で，「徳島県内の小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒を対象に，人権に関する作品（意見発表に係る作文，作詩作曲，標語ポスター）を募集し，入賞作品の表彰・展示を行うとともに，様々な学習教材や啓発資料などに活用して，県民の人権意識の高揚を図り，人権教育・啓発の推進に資することを目的として実施しています。」と示されている。

また，京都府がホームページ「京都人権ナビ」内で示している「府内の小・中学校及び高等学校の児童・生徒が，人権をテーマとしたポスター（絵画）の制作を通じて基本的人権について理解を一層深め，人権尊重の精神を養う機会とするため」といった目的も「人権ポスターづくり」をする上で大切になってくることだと考える。

このような目的の下，本県では「人権ポスターづくり」が実施されているのだが，多くの教員はこの指導の在り方で頭を悩ませている。このことは，図工の研修会で実施したアンケート結果からうかがえる。主な悩みとして，「①みんな同じような作品になってしまう」ことや「②作品をつくるためだけの時間になってしまっている」こと，「③なかなか描き始められない子供が出てしまう」ことや「④もっと，他のことをする図工の時間をとりたい」こと，「⑤子供に人権ポスターづくりの意欲を感じられない」ことなどが挙げられていた。①や②や⑤に関しては，図工の目的，人権ポスターづくりの目的の両方に沿っていないのではないかと考えられる。そこで，低学年においてこれらを解決できる題材がどのようなものであるか考え，本題材を設定した。

本題材は，「道徳の時間と連携しながら」進めていく。理由は，図工の時間だけでは，人権ポスターづくりの目的を達成することは難しいと考えたからだ。まず，道徳の時間に「感謝」や「友情，信頼」に関する学習で，最近どんなことが一番「嬉しかった・楽しかった？」と問うことから始める。そして，その嬉しかった・楽しかった時には「いつも周りに家族や友達がいた」ことに気付かせる。そうすることで，子供一人一人が思う「嬉しい・楽しい」のイメージの中で家族や友達の存在も膨らみ，人権ポスターづくりの目的に沿うようになって考えた。その後は，図工の時間を使い，その膨らませた「嬉しい・楽しい」イメージが冷めないうちに絵に表していく。

低学年の子供が描く絵は，イメージしたことがそのまま表れる傾向にあるため，道徳の時間での指導が大切になってくる。道徳の時間に，前段で示したような子供の「嬉しい・楽しい」イメージを十分に膨らませることができていれば，多くの教員が人権ポスター指導において抱えていた①～⑤の悩みは解消され，図工と人権ポスターづくりの目的の両方とも達成できるのではないかと考える。ただし，多くの子供は「感謝」や「友情，信頼」に関することよりも，「嬉しかったこと・楽しかったこと」の方が描きたい内容になると考えられる。そのため，「嬉しかったこと・楽しかったこと」が全面に表れた絵になるかもしれない。しかし，だからといってどちらのイメージも無理に絵に表わさせようと指導してしまうと，子供のイメージは尻すぼみになり，絵から嬉しさや楽しさを感じられなくなってしまうだろう。このような場合には，道徳の時間に「感謝」や「友情，信頼」に関する指導をしているのだから，適宜「お家の人や，遊園地に連れて行ってくれたんだね。嬉しかったね。」や，「友達がいたから，余計に楽しかったんだね。」などのように声かけをしていけば，人権ポスターの目的に沿いながら，個性豊かで楽しい感じの作品が出来上がるのではないかと考える。

指導にあたっては、前段で述べたような声かけとともに、既習の「ぺったんコロコロ（日文１・２上：平成３１年検定済教科書）」や「ぼかしあそびで（開隆１・２下：平成３１年検定済教科書）」などで学んだ表現方法を思い出させておく。既習の表現方法とは、紙やスポンジなどに絵の具をつけてぺたぺたしたり、ローラーでコロコロ色つけをしたり、クレヨンで描いたところを紙や布などでこすってぼかしたりすることである。このような表現方法を子供が活用したいと思った時、すぐに使えるように教師は準備を整えておきたい。他に、色紙や、色画用紙、ラメなども用意しておき、子供の表したい思いに応えられるようにしておくことも大切だと考える。

このように、子供一人一人が「嬉しかったこと・楽しかったこと」を工夫しながら絵に表す中で、家族への「感謝」の気持ちや、友達との「友情、信頼」に関することに気付くことができれば、人権ポスターづくりの目的の達成とともに、図工が目指す「子供の創造性を育成する」ことも達成できると考える。なお、出来上がった作品は、図工の時間に「造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方」などについて感想を出し合い、子供一人一人の見方や感じ方を広げるために活用する。そして、道徳の時間には、家族への「感謝」の気持ちや、友達との「友情、信頼」に関することを絵に表した経験を通して、子供一人一人の「基本的人権についての理解を一層深め、人権尊重の精神を養う機会」とし、「人権意識の高揚を図り、人権教育・啓発の推進に資すること」につなげていく。そうすることで、低学年における人権ポスターづくりが実現すると考える。

3 題材の目標

- (1) 自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを十分に働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。

(知識及び技能)

- (2) 形や色などを基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表すかについて考えるとともに、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 ・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを十分に働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	・形や色などを基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表すかについて考えている。 ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わうとともに、自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（道徳2時間、図工4時間）

図工での指導に入る前に、道徳の時間を使い「B主として人とかかわりに関すること」の「感謝」や「友情、信頼」についての指導を行う。この時間には、どんな時に「嬉しい・楽しい」と思うのかについて考えさせ、最近一番「嬉しかった・楽しかった」ことを思い出させる。そして、その「嬉しかった・楽しかった」時には、いつも周りに家族や友達がいたことに気付かせる。そうすることで、子供一人一人の中に「嬉しかった・楽しかった」ことのイメージとともに、家族への「感謝」の気持ちや、友達との「友情、信頼」に関するイメージを膨らませることができる。と考える。

その後は図工の時間を使い、子供一人一人が膨らませたイメージを絵に表すことができるよう、次のような指導と評価を行い実践していく。

なお、作品が完成した後には、図工の鑑賞とは別に、道徳の時間に「作品づくりを通して、基本的人権についての理解が深まり、人権尊重の精神を養うことができたか」や「友達の作品を見て、人権意識の高揚を図ることができたか」といった観点から本活動を振り返るようにする。

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」のイメージから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表わせばよいか考える。	態 ○	・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」のイメージから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表わせばよいか考えている様子を観察する。 (観察・発言・対話)
2	・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫する。	思 ◎ (発想や構想)	・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫している様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話)
3	・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、既習を生かし、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。 ・自分の感覚や作品づくりを通して、自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」にふさわしい形や色などに気付く。	技 ◎ 知 ◎	・自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、既習を生かし、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話) ・自分の感覚や作品づくりを通して、自分の「嬉しかったこと・楽しかったこと」にふさわしい形や色などに気付いているか観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話)
4	・自分や友達の「嬉しかったこと・楽しかったこと」の絵を見合いながら、それらの面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。	思 ◎ (鑑賞) 態 ◎	・自分や友達の「嬉しかったこと・楽しかったこと」の絵を見合いながら、それらの面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話)

